

事業コード	H26-建-新-02		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2483
路線名等	国道101号		担当課長名	柴田 公博
箇所名	男鹿市浜間口		担当者名	浅井 学
総合計画との関連	政策コード	03	政 策 名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施 策 名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	03	施策目標(指標)名	地域間ネットワークの構築

1. 事業の概要

事業期間	H27 ~ H33 (7年)		総事業費	11.8億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長 L=2,770m 幅員 W=6.0(8.5)m (1.25-3.0-3.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>一般国道101号は、青森県青森市から秋田県秋田市を結ぶ国道である。県沿岸部の主要拠点である能代市、男鹿市、秋田市を結ぶ主要幹線道路であり、物流や観光などの産業振興や、救急医療、地域防災などの機能を担う非常に重要な路線である。</p> <p>当該区間の車道幅員は狭く、車両のすれ違いが困難であり、特に大型車両の通行に大きな支障が生じている。大型観光バスが通行可能な男鹿半島周遊観光ルートの形成および第二次緊急輸送道路に指定されている本路線の機能を保持するため、早急に整備を実施する必要がある。</p>						
事業目的	<p>○緊急輸送道路としての機能を確保する(第二次緊急輸送道路)</p> <p>○バイパス整備による安全で円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形改良および幅員の確保による車両等通行の安全性等の向上 ・通過交通の排除による沿線住民である歩行者自転車の安全性の向上 						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度以降
	事業費		1,180,000	60,000	100,000	300,000	720,000
	経費内訳	工事費	879,000			206,000	673,000
		用補費	130,000		40,000	55,000	35,000
		その他	171,000	60,000	60,000	39,000	12,000
	財源内訳	国庫補助	826,000	42,000	70,000	210,000	504,000
		県 債	318,600	16,200	27,000	81,000	194,400
その他							
一般財源		35,400	1,800	3,000	9,000	21,600	
事業内容			用地測量、各種調査、道路詳細設計	用地測量、橋梁設計、用地買収	本工事、用地測量、用地買収	本工事、用地買収	
調査経緯	<p>○平成21年度 道路概略設計</p> <p>○平成23年度 道路予備設計</p>						
上位計画での位置付け	○第2期ふるさと秋田元気創造プラン重点戦略(観光・交通戦略)の「地域間ネットワークの構築」を推進する事業						
関連プロジェクト等	○男鹿市総合計画後期基本計画(平成23~27年度)						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>○国道101号道路整備促進期成同盟会より道路整備の要望書が提出されている。(平成26年)</p> <p>○男鹿市津波ハザードマップの見直し(平成25年)</p>						
事業効率把握の手法	指標名	県管理国道改良率					
	指標式	改良率(県管理国道改良済延長/県管理国道実延長)					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無		
	目標値 a	94.7 %	データ等の出典		道路課調べ		
	達成値 b	93.3 %					
達成率 b/a	98.5 %	把握の時期	平成26年 4月				

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○車道幅員が4.0から5.0mと非常に狭く、冬期堆雪中も確保されていない。縦断勾配が8%の急勾配区間も存在し、車両の安全な通行に支障を来している。	20点
緊 急 性	○国道101号の三種町から男鹿市北部沿岸部を通る区間において、一次改良(車道幅員5.5m以上)が行われていない区間は、平成25年4月に男鹿市・三種町より移管されたメロンロード(通称)を除き当該区間のみとなっていることから、早急に改良する必要がある。 ○当該区間の一部は、男鹿市津波ハザードマップにおいて予想津波浸水域となっている。	20点
有 効 性	○第二次緊急輸送道路に指定されており、整備による機能強化が期待される。 ○男鹿半島の観光地を周遊する観光ルートの充実が図られる。	14点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.05であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 11.6億円 ・総便益の現在価値 12.1億円 ○計画交通量は1,200台/日である。	13点
熟 度	○国道101号道路整備促進期成同盟会より道路整備の要望が出されている。(平成26年)	15点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	82点
	判定ランクIであり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評定結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
一般国道101号は県沿岸部の主要拠点を結ぶ主要幹線道路であるが、当該区間は車道幅員が4~5mと狭く、大型車のみならず普通車の通行にも支障をきたしている状況であり、バイパス整備は必要性とともに効率性も認められ、また円滑な交通の確保による周遊観光ルートの充実が図られることによる有効性も認められることから、事業実施の一次評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
計画区間は車道の幅員が狭く車両のすれ違いが困難となっており、バイパス整備により新たな男鹿半島周遊観光ルートの形成や第二次緊急輸送道路としての機能強化につながるが見込まれ、事業実施の優先度は高いと判断される。また、効果的かつ安価となる工法の採用を検討するなどコスト縮減も検討されており妥当である。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
 適用基準名 道路改築事業 (地域間交流・連携促進)

事業コード (H26-建-新-02)
 箇所名 (男鹿市浜間口)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題点 ・ 車道幅員 < 5.5m ・ 最小半径 < 100m ・ 最急勾配 > 5% ・ 冬期堆雪中なし	3箇所以上	17	17	2次改築事業については該当しない。
		2箇所	12		
		1箇所	7		
		0箇所	0		
		計	35		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・ 現道の混雑度 ≥ 1.0 ・ 現道の旅行速度 ≤ 30km/h ・ 現道の事故率 ≥ 50件 ・ 通学路指定で歩道なし ・ 重大交通事故が発生	5件該当	18	3	2次改築は配点35点 2次改築は配点28点 2次改築は配点21点 2次改築は配点14点 2次改築は配点7点
		4件該当	14		
		3件該当	10		
		2件該当	6		
		1件該当	3		
該当項目なし	0				
計	35	20			
緊急性	道路をとりまく環境等 関連事業の有無 ・ 県の主要プロジェクト ・ 地域振興プロジェクト ・ ほ場整備等の他事業 緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	10	10	
		なし	0		
		あり	10		
		なし	0		
		計	20		
有効性	道路の位置づけ 緊急輸送路	第1次輸送路	8	7	
		第2次輸送路	7		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	救急医療施設へのアクセス	直接アクセスする	7	7	
		間接的に補完する	5		
		アクセスへの貢献は小さい	1		
計	15	14			
効率性	事業の投資効果等 費用便益比 (B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	5	3	
		1,000台/日以上5,000台/日未満	3		
		1,000台/日未満	0		
計	15	13			
熟度	地元の状況 地元ニーズ	文書要望あり	10	10	
		口頭要望あり	5		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	あり	5	5	
		なし	0		
計	15	15			
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		